登りだよ人

生

は

が 0 あ 0

ところが平成

3

たことが

め 0 く り m じ

り、三俣山をバッなm付近にはカラ松はしゅう山の標高15

兀

日

0

夜

の撮影スポッ

創部20年余りの立花FC(フットボールクラブ)ジュニアです。

本クラブは、サッカーを通じて心身を鍛え、フェアープレーの精神を養い、強く正しく、創造力豊かな人間の 育成を目的とし、毎週火・水・土に八女市立花グラウンドで練習に取り組んでいます。また、「友達づくり」「集

中力づくり」「体力づくり」をモットーに日々練習 に励んでいます。レベルの向上を目指して、練習試 合も年間を通して行い、サッカー協会主催の大会に も積極的に参加しています。

昨今のサッカー人気は非常に高く、全日本男子の ワールドカップでの大健闘、女子サッカーなでしこ ジャパンのワールドカップ優勝などその勢いは止ま りません。当クラブからも、将来世界で活躍する選 手が誕生する日も近いかもしれません。

当クラブでは、随時部員の募集もしています。小 学生の男子・女子であればだれでも入部できます。 体験入部もできますので、立花FCジュニアで一緒 にサッカーを始めてみませんか。あなたのチャレン ジ待ってます! (立花FCジュニア保護者会)



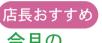


20942-54-7755

イベント

家族で手造りケーキ開催

25日(土)・26日(日) 1日6組限定、希望者多数の時は 抽選。よらん野 田中迄 応募期間 2月6日~18日



旬のもの

イチゴ・キウイ・みかん





『笑顔の素敵な人』 樋口愛子さん

昨年新装オープンした「生産者直売所JA よらん野」で、明るい挨拶と笑顔が素敵な 樋口愛子さん。JAふくおか八女に23年間 勤務された後、長い生活指導員の経験や、 野菜などの豊富な知識と栄養学をもとに当 所で食育アドバイザー(8年目)として試食 コーナーを担当されている。店内の試食品 などは全て樋口さんの作品で、地場産の安全・ 安心・安価な野菜類を使い美味しく栄養価 の高いものになるように工夫提案されてい

ます。特に野菜摂取量が少ない現代人の食生活を心配し少しでもお役 に立てばとの思いと、手間がかからず美味しく食する料理がモットー だそうです。また、郷土料理の伝承にも尽力されており、地域の食文 化に貢献するなど多忙な毎日を過ごされていますが、食することへの 感謝の心が伝わる明るくほがらかなお人柄です。

矢部川源流•杣の里の四季 ⑧

マンサク(マンサク科)

マンサクは漢字で満作、万作、金縷梅と書く。満作、万作は花を たくさんつけるから、金縷梅は花の色からつけられているようである。 もう一つ、この花が2月の中頃から黄色い花を咲かせて、春の訪れ を知らせてくれるので『まず咲く』が訛ったとの説もある。

撮影は、釈迦・御前岳周辺に広がるブナ林の裾あたりの落葉樹林 の崖っぷちで、300mm望遠レンズを使用した。

花はおもしろい形で、4枚のリボン状の花弁がよれて広がった小 さな花である。しかしこの花は、"一番""豊作"などを連想させ る縁起のいい花で、乾燥した葉は、止血薬として赤痢、内臓器官の 出血、痔疾などに効き目があるという優れものである。咲く場所や 時期から一般にはなじみが薄いが、是非知って頂きたい花である。





松は復活している。 めれから20年、少しずは不可能だと思った。 日に参加 女文化連盟写真 「陸前京 高田の松も い…」とつ した松本会

根こそぎ 誰もが を 再

なった。 こともあった。 ギンナンを競争で数えた。 き合うことなどほとんど を見つけて泣き出した が落ちる季節だった。 をくわえたカマキ 色に染まりギンナ 鎮守のは りには落ちた 自然と向 ようだ いれから

たような思 えら いで骨

の送迎が日課とを兼ねて片道20に通っていた。 の大銀 昔の お屠蘇の酔いも 詰めて帰ったイモ掘 ったサイクリ 話題でひとしきり 顔を揃えた元 久しぶりに 7家の 加 レ ジ わ \mathcal{O}

シをと

杜が

1分 ー 海 。わ デ て り ら な ス 外 年 が ィ の 盛 つてを族 よくぞみんな心のやさし 独立して家庭を持った今、 ってくれたと誇りに思う。 い家族思いの社会人に育

ちの屈託ない笑顔に教え ポカポカ、一陽来福、ど がり、老妻と二人、外は 戻ってきたのどかな昼下 て嬉しの孫たちが去り、 られた。来て嬉し、帰っ 俺たち夫婦の子育てはこ にあったのだ。子どもた やかな幸せはこんな身近 れでよかったのだ。ささ の開花も近い。

ねて

の子どもたちそれぞれが になり、いくつになって

西日本新聞をご購読のあなたにお届けしています